学習ノート「青谿書院記」3

令和5年12月3日（担当藤原　宮崎　守本）

原文

而庭際雜二植松竹櫻梅桃李海棠一、的皪開落之花、歲寒山禽後凋葉、亦足二以娛一目怡一心焉、而山禽渓響、與二吾讀書之聲一、日夕相應答不レ已、嗟乎是乃吾之所二以優游自適、樂而待一老焉者也、

抑古人有言、曰自レ有二宇宙一以来、已有二此渓山一、還有二此佳客一否、然則非二渓山之難一得、而佳客之誠不レ易レ遇也、

昔者巖子陵隱二於富春一、而釣臺儼然不レ朽、龐徳公栖二於鹿門一、而勝迹至レ今猶存、乃今如二此青谿之勝一、亦所レ謂自レ有二宇宙一以来已有レ之者、

読み

庭際には松竹・櫻梅・桃李（とうり）・海棠（かいどう）を雑（まじ）え植え、的皪（てきれき）たる開落の花、歳寒後凋の葉も亦以て目を娯しませ心を怡（よろこ）ばしむるに足る。山禽渓響と吾が読書の声と、相応答して已まず。嗟乎、是れ乃ち吾の優游自適、楽しみて老いを待つ所以の者なり。

抑（そも）も古人の言へる有り、曰く、宇宙有りて自り以来、已に此の渓山有り、還（かえ）りて此の佳客有りや否やと。然らば則ち渓山の得難きに非ずして、佳客の誠に遇い易からざるなり。

昔、厳子陵富春に隠れて、釣台は儼然として朽ちず。龐徳公、鹿門を栖として、勝迹は今に至るも猶存す。乃ち今此の青谿の勝の如きも亦、所謂宇宙有りて自り以来已に之れ有る者にして、

現代文に

庭には、松や竹、桜や梅、桃やスモモ、海棠を植えている。花はくっきりと白く咲いたり散ったりする。寒くなって、松の葉もしぼむ。目を楽しませ、喜ばせてくれる。そして、山の鳥や谷川の流れの音とが、私の読書する声と響き合っている。ああ、これこそ私のゆったりとして満たされ、楽しみながら老いを待っている理由である。

そもそも、昔の人が言っている。宇宙が始まってから、すでにこの谷や山はあった。ふり返って見ると、そこにふさわしい人があったかどうか。まだから、すばらしい谷や山が得がたいのではなく、そこに住むに相応しい人を得がたいのだ。

昔、厳子陵は富春山に隠れ住み、農耕し魚を釣っていたが、その釣り場は少しも朽ちていない。龐徳公は鹿門を住み農耕していたが、その跡は今も残っている。つまり、ここ青谿の景色も、宇宙が始まってからあるのだ。

言葉

的皪＝テキシキ　テキレキ　くっきりと白いさま
幅開落＝カイラク　花が開くことと散ること
凋＝チョウ　しぼむ
怡＝よろこばす
山禽＝サンキン　山に住む鳥
抑＝ヨク　おさえる　そもそも
釣臺＝釣台　チョダイ
龐徳＝ほうとく　後漢末期の武将
勝迹＝ショウセキ　古跡
還＝マタ